

## ウイルス不活化試験

### 1 依頼者

アサヒプリテック株式会社

### 2 検体

アクアプロ21Rによる生成水(30ppm)

備考：検体は財団法人 日本食品分析センターにて調製した。  
 なお、検体は依頼者により設置されたアクアプロ21Rを用いて調製した  
 (設置日：平成11年8月20日)。

### 3 試験実施場所

財団法人 日本食品分析センター 大阪支所  
 大阪府吹田市豊津町3番1号

### 4 試験担当責任者

財団法人 日本食品分析センター 大阪支所  
 微生物部 微生物試験課

### 5 試験実施年月日

平成11年11月15日～平成12年2月17日

### 6 試験目的

検体にウイルス浮遊液を接種し、経時的にウイルス感染価を測定する。

### 7 試験概要

検体0.9 mlにウイルス浮遊液0.1 mlを接種(以下「試験液」という。)し、室温に保存した。  
 保存3, 5及び10分後に試験液中のウイルス感染価を測定した。  
 また、検体の有効塩素濃度を測定した。

## 8 試験結果

結果を表-1に示した。

表-1 試験液のウイルス感染価測定結果

試験ウイルス	有効塩素濃度 (mg/L)	log TCID <sub>50</sub> /ml <sup>*1</sup>			
		開始時 <sup>*2</sup>	3分	5分	10分
インフルエンザウイルス	45	5.3	<1.7	<1.7	<1.7
単純ヘルペスウイルス	45	6.0	<1.7	<1.7	<1.7
アデノウイルス	35	4.3	2.0	<1.7	<1.7
ポリオウイルス	35	4.7	2.0	<1.7	<1.7

\*1 試験液1 ml当たりの50%組織培養感染量(TCID<sub>50</sub>)の対数値

\*2 ウイルス浮遊液の50%組織培養感染量を測定し、試験液1 ml当たりに換算した。

## 9 試験方法

### 1) 試験ウイルス

- ① インフルエンザウイルスA型(H1N1)
- ② 単純ヘルペスウイルス1型
- ③ アデノウイルス5型
- ④ ポリオウイルス2型

### 2) 使用細胞

- ① インフルエンザウイルス：MDCK(NBL-2)細胞 ATCC CCL-34株[大日本製薬株式会社]
- ② 単純ヘルペスウイルス、アデノウイルス及びポリオウイルス：Hep-2細胞 ATCC CCL-23株[大日本製薬株式会社]



エンベロープを持つウイルス